



／ 知って納得！ ／

受けようがん検診！！



八王子市のがん検診の内容、実施方針について

がん検診には、右表のとおり2つの種類があります。自治体が市民を対象に実施する検診は、「**対策型検診**」と言い、市民の死亡率を下げることを目的としています。

また、公費を使うため、『有効性の確立した』方法で実施する必要があります。

それでは、『有効性の確立した』がん検診とは何か、実施条件は次の4つです。

～対策型検診と任意型検診の違い～		
	対策型検診 (住民検診型)	任意型検診 (人間ドック型)
目的	市民の死亡率を下げる	個人の目的や意思による
種類・方法	死亡率減少効果が証明されているがん種・方法	方法は様々。有効性の確立していない方法も含まれる
検診費用	公的資金を使用 (一部自己負担)	全額自己負担

1

そのがんになる人が多く、またそのがんによる死亡が多い。一方で、がん検診によりそのがんによる死亡を確実に減少できる。

2

発見されたがんの治療法がある

3

安全で精度の高い方法がある

4

1・2・3の条件を備え、総合的にみて検診を受けるメリットがデメリットを上回る

がん検診のメリット (利益) とデメリット (不利益) について

メリット (利益)

最大の効果は、早期発見、早期治療による救命効果です。早期発見であれば、身体的負担、経済的負担も一般的に少なくてすみます。

デメリット (不利益)

- ▶ 精密検査になっても実際にごんとある人は5%程度。がんかもしれない不安感、不必要な精密検査、検査に伴う痛み等があります。
- ▶ どんなに優れた検査でも100%すべてのがんを発見することはできません。
- ▶ がんによっては、死に至らないタイプや、進行が遅いがんもあります。高齢であれば、がんをもったまま、他の原因で死亡することもあります。検診でがんを発見・治療する必要がない場合もあります。

死亡率減少効果があり、総合的にメリットがデメリットを上回るとして、国の指針に示されている検診が、**胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん・子宮頸がん(女性のみ)検診**です。